

目 次

はじめに v

第 1 章 中国語を母語とする日本語学習者への漢字・漢字語彙教育に関する先行研究 1

1.1 漢字・漢字語彙の対照研究.....	1
1.1.1 漢字語彙の分類 2	
1.1.2 日中同形語の対照研究 6	
1.1.3 日中の漢字に関する対照研究 9	
1.2 漢字・漢字語彙の習得研究.....	11
1.2.1 NCS の誤用に関する研究 11	
1.2.2 母語転移と漢字・漢字語彙習得に関する研究 15	
1.3 NCS のための漢字語彙分析のあり方	19

第 2 章 中国語を母語とする日本語学習者の漢字・漢字語彙学習に関する意識 23

2.1 意識調査の概要	24
2.2 日中の漢字の類似点に関する意識—学習開始前調査—	25
2.2.1 学習開始前調査の対象 26	
2.2.2 学習開始前調査の内容 26	
2.2.3 学習開始前調査の結果と考察 27	
2.3 漢字・漢字語彙学習に対する意識—学習開始後調査—	30
2.3.1 学習開始後調査の対象 30	

2.3.2	学習開始後調査の内容	31
2.3.3	学習開始後調査の結果と考察	32
2.4	NCS の気づきを促す漢字語彙教育のために	36

第 3 章 漢字語彙分析の概要 39

3.1	日本語教育のための漢字語彙分析	39
3.2	分析対象語	41
3.3	単漢字語と複漢字語	47
3.3.1	「日本語と同形の中国語」が指すもの	47
3.3.2	同形の中国語が語素である単漢字語	49

第 4 章 表記に関する分析と分析結果 53

4.1	日本語と中国語の字体の差異	55
4.2	字体の日中対応関係に見られる問題点	59
4.2.1	分析の手順	60
4.2.2	分析結果と考察	64
4.2.2.1	字体の日中対応関係	64
4.2.2.2	字体間の差異による漢字分類	72
4.3	字体の日中対応関係に現れない問題点	83
4.3.1	NCS にとって馴染みの薄い文字	84
4.3.1.1	調査の手順	85
4.3.1.2	調査結果と考察	89
4.3.2	手書きの際に現れる日中の文字の相違点	94
4.3.2.1	日中で異なる筆順	94
4.3.2.2	手書き特有の書き方	97

4.4 表記に関する分析と分析結果のまとめ	103
-----------------------------	-----

第5章 読みに関する分析と分析結果 105

5.1 日本語教育における漢字の読みの扱い	105
5.2 語によって読み方が異なる漢字	109
5.2.1 調査対象と手順	110
5.2.2 調査結果と考察	110
5.3 NCS に特徴的な読みの問題点	113
5.4 読みに関する分析と分析結果のまとめ	117

第6章 語義用法に関する分析方法 119

6.1 分析対象とする語義用法	119
6.2 分析の手順	124
6.3 分析に用いる資料と分析方法	125
6.3.1 分析資料	125
6.3.2 分析方法	127
6.4 分類の枠組み	139
6.4.1 転用プラス (PT: Positively Transferrable) 語	141
6.4.2 転用注意 (CT: Carefully Transferrable) 語	141
6.4.3 転用マイナス (NT: Negatively Transferrable) 語	145
6.4.4 転用不可 (UT: Un-Transferrable) 語	146

第7章 語義用法に関する分析結果 149

7.1 4 級漢字名詞の4 分類の全体像	149
----------------------------	-----

7.1.1	NCS の理解と産出に関する 4 級漢字名詞全体の特徴	152
7.1.2	NCS の理解と産出に関する 4 級単漢字名詞と 4 級複漢字名詞の比較	154
7.2	4 級単漢字名詞の分類結果	156
7.2.1	4 級単漢字名詞の PT (転用プラス) 語	157
7.2.2	4 級単漢字名詞の CT (転用注意) 語	162
7.2.3	4 級単漢字名詞の NT (転用マイナス) 語	186
7.2.4	4 級単漢字名詞の UT (転用不可) 語	188
7.3	4 級複漢字名詞の分類結果	190
7.3.1	4 級複漢字名詞の PT (転用プラス) 語	191
7.3.2	4 級複漢字名詞の CT (転用注意) 語	197
7.3.3	4 級複漢字名詞の NT (転用マイナス) 語	210
7.3.4	4 級複漢字名詞の UT (転用不可) 語	213
7.4	位置・時に関する 4 級漢字名詞の語義用法	227
7.5	語義用法に関する分析結果のまとめ	238
7.5.1	単漢字名詞と複漢字名詞の特徴	238
7.5.2	4 類の特徴	239
おわりに 243		
謝辞 249		
卷末資料 253		
解説「日中対照語彙リスト」 254		
参考文献 266		
索引 278		

第 1 章

中国語を母語とする日本語学習者への 漢字・漢字語彙教育に関する先行研究

本研究の課題は、NCS の母語知識を日本語の漢字語彙学習に活かすために、日中の比較から見えてくる両言語の違いをもとに NCS にとって何が問題となりうるかを特定し、指導や学習に活用できる語彙の特徴を具体的に示すことにある。本章では、まず漢字・漢字語彙に関する先行研究¹のうち、日中対照研究と習得研究についてそれぞれ 1.1 と 1.2 で概観し、日本語教育への活用という観点から研究の成果と問題点を述べる。1.3 では、NCS に対する漢字語彙教育のために、どのような基礎研究が必要であるかについて考察する。

▶ 1.1 漢字・漢字語彙の対照研究

漢字語彙に関する日中対照研究は、大きく二つに分けることができる。

一つは、日本語の漢字語彙あるいは中国語の語彙を分析対象とし、日中両言語における同形の語の有無や語義の対応関係により、語彙を分類するというものである。もう一つは日中同形語の分析で、日本語の漢字語彙と同表記の中国語について、その語義用法等を比較対照したものである。そこでは、語の表記に関わる漢字（文字）そのものの日中対照は扱われていない。

1 先行研究では、中国語を母語とする日本語学習者を指す際、本書とは別の用語が用いられていることがあるが、指す対象が実質的に同じであると判断できる場合、本書では“NCS”を用いる。

第2章

中国語を母語とする日本語学習者の 漢字・漢字語彙学習に関する意識

本章では、NCSの漢字・漢字語彙学習に関する意識の実態と傾向を知るために北米の大学で日本語学習者を対象に行った調査¹について述べる。

母語転移の重要な要因の一つが、学習者が捉えている母語と目標言語間との距離にある（Kellerman 1977, 1978, 1979）とすれば、NCSが日中の漢字・漢字語彙をどの程度似ていると思っているかが、彼らの漢字・漢字語彙学習に影響を及ぼすと考えられる。では、実際、NCSは日中の漢字・漢字語彙をどの程度似ていると感じているのだろうか。彼らは言語間の違いをどれほど意識しているのだろうか。また、NCSは日本語の漢字・漢字語彙学習において、何に注意を払い、どの部分を難しいと感じているのだろうか。

NCSに対して行った意識調査には、漢字学習で最も難しい側面や漢字の学習法等について調べたもの（石田 1984）、漢字の独習の可能性について調べたもの（清水 1994）、漢字の学習法や異字形漢字に対する意識について調べたもの（向井 2014）があるが、NCSが捉えている日中の漢字の距離や、学習時に注意を向けている漢字の側面等を調べた調査は、管見の限り見られない。

そこで、本書では、漢字・漢字語彙の学習を始める前の学生と、現在学習中の学生を対象に2種類の異なった調査を実施し、漢字・漢字語彙学習に対するNCSの意識の実態を把握することにした。

1 本調査は、T大学における倫理審査（プロトコール番号：30951）を通っている。

第 3 章

漢字語彙分析の概要

本章では、第 1 章の先行研究と第 2 章の調査結果を踏まえ、NCS に対する日本語教育のために本研究が行う漢字語彙分析の概要を述べ、分析対象とする漢字語彙の一覧を示す。

まず、3.1 で日本語教育のための漢字語彙分析において重要な点を整理し、本研究で行う分析の概要を述べる。次に、3.2 で分析対象語彙を特定するための方法と語彙リストを示す。3.3 では、単漢字語と複漢字語との違いについて説明し、本分析でこれらをどのように一緒に扱っていくかについて述べる。

▶3.1 日本語教育のための漢字語彙分析

本研究の目的は、NCS への効果的な漢字・漢字語彙教育を考えるために、漢字語彙の分析方法を提示して、NCS にとって何が問題となりうるかを初級レベルの語彙について具体的に特定することにある。第 1 章の先行研究と第 2 章の NCS に対する意識調査の結果により、分析には以下の 4 点が重要であることが明らかとなった。

- (1) 分析対象は、漢字ではなく漢字語彙とすること
- (2) 漢字語彙は、いわゆる漢語だけでなく和語や単漢字語を含むこと
- (3) 古い言葉やかたい書き言葉ではなく、日中で日常使用されている現代

第4章

表記に関する分析と分析結果

語彙の日中対照分析については、1.1.2 (pp. 6-9) で主に日本語と同形の語の分析が活発に行われてきたことを述べたが、そこでの「同形」は語を構成する文字が本来同じであることを指し、現代語の中で実際に読み書きをする文字が両言語で視覚的に大きく違っていても、それは問題とされてこなかった。しかし、日本語教育で漢字語彙を扱う際には、康熙字典体に遡って同じ文字だと認められる場合でも、NCS や教師が同じ文字だと認識できなければ、NCS の母語知識を漢字語彙指導に活かすことができない。言い換えれば、漢字語彙指導では語を構成する文字がNCSにとって「わかる」文字か否かが問題となる。では、NCSにとって日本語の漢字が「わかる」、あるいは「わからない」というのは、どういうことを表しているのだろう。

NCS が日本語の漢字を見て「わかる」、または「わからない」という場合、図 4-1 の①～⑤のケースが考えられる。この場合の「わかる」、「わからない」は、文字として認識でき、その文字の具体的な意味が言えたり、その文字を使った語が想起できたりするということを意味している。端的に言えば、NCS が「この漢字は中国語にもある」と判断するか、「これは中国語の漢字ではない。中国語では使わない」と判断するかということを指す。

第5章

読みに関する分析と分析結果

第2章では、漢字・漢字語彙学習に関する意識調査により、NCSは、日中の漢字の「音・読み」は似ている側面より異なる側面の方が多いと感じており、「音・読み」の学習が最も難しく、最も注意を払っているということがわかった。中国語との類似点が視覚的に捉えられる漢字の「形」と比べると、漢字の「音・読み」は違いの方がより意識されている。しかし、日本語の漢字語彙の読みは、それほど学習が難しいものなのだろうか。NCSが感じる読みの難しさはどこから来るのだろうか。

本章では、まず、5.1で日本語教育において漢字の読みがどう捉えられているかを概観する。そして、新しい漢字語彙の導入を通して複数に読み分けが必要な漢字を段階的に扱うことにより、NCSが漢字の読みの学習に対して感じている負担を軽減できる可能性のあることを主張する。5.2では、4級漢字名詞の中で複数に読み分ける必要のある漢字とそれを含む語彙がどの程度存在するかを調べた結果について述べる。5.3では、NCSに特徴的な漢字語彙の読みの問題点を取り上げ、5.4で全体のまとめを行う。

▶5.1 日本語教育における漢字の読みの扱い

日本語教育では、日本語の漢字には原則として音訓2種類の読みがあり、中には3種類以上ある文字が存在すると言われることが多い。そして、その点が基本的に一字一音とされる中国語の漢字とは異なっており、そのため

第 6 章

語義用法に関する分析方法

第 6 章と第 7 章では、4 級漢字名詞の語義用法に関して、NCS が母語知識を積極的に活用して学習できることは何か、それに対して母語知識だけでは処理できない場合、漢字語のどの部分に注意すべきかを明らかにするために行った分析について述べる。本分析での留意点は二つある。

一つは、本分析は初級の NCS への漢字語彙教育を念頭に置き初級前半の漢字語彙を分析対象としているため、日中で現在使用されている日常の言葉に限定して対照すること、もう一つは、NCS の漢字語彙の理解だけでなく、産出時に注意すべき点を特定するために、語義だけでなく語が使用される文法、語の品詞、語のコロケーションについても分析対象とするという点である。

第 6 章で分析方法を説明し、分析結果とその考察は第 7 章で述べる。

▶6.1 分析対象とする語義用法

分析対象は 4 級漢字名詞の 295 語とし、分析結果については単漢字名詞 (122 語) と複漢字名詞 (173 語) の特徴がわかるように、これらを分けて整理する。

各語の語義用法は、本書の対象が初級前半レベルの NCS であるため、初級段階で扱われる可能性の高いものに絞った。具体的には、以下の a ～ c の総合教科書のうち 1 種類以上で扱われている語義用法を分析対象とし、a ～

第 7 章

語義用法に関する分析結果

日本語の漢字語彙には、中国語の語彙と同形で NCS が母語の知識を語義用法の学習に活かすことができる語と、母語の知識が誤った理解や産出に結びつく可能性のある語、さらに、母語知識では対応できない語がある。そこで、どの語彙にこういった特徴があり、NCS が何に注意しながら学習すればよいかが具体的にわかれば、NCS に対して効果的な漢字語彙教育を行うことができる。

本章では、NCS が母語知識をどのように活用できるかという基準で行った 4 分類に沿って、4 級漢字名詞の分析結果を見ていく。まず、7.1 では、分類結果の全体像を紹介し、単漢字名詞と複漢字名詞に見られる特徴について考察を行う。7.2 と 7.3 では、単漢字名詞と複漢字名詞のそれぞれの分析結果を述べる。7.4 では、分類に含まなかった語の分析結果を述べ、最後に 7.5 で語義用法に関する全体のまとめを行う。

▶7.1 4 級漢字名詞の 4 分類の全体像

語義用法に関する分析では、第一段階で 4 級漢字名詞 295 語について中国語との対照分析を行い、日中対照語彙リストを作成した。第二段階ではリストの語彙に、以下の基準で、(1) PT (転用プラス) 語、(2) CT (転用注意) 語、(3) NT (転用マイナス) 語、(4) UT (転用不可) 語のラベルを付け、分類を行った。